



朝もやの漁師の姿。
落ち鮎が、菊池川に秋を告げる。

撮影 徳永 義孝さん

菊池川の オロガキ漁

いつの頃から始まったものか、その起源はさだかでない。
産卵のため、砂地の小石を求めて川を下る「落ち鮎」がねらわれる。川面に、しめ縄風のわら縄を張り渡し、川底には、水中でキラキラ光る麦からを敷く。

これを恐れる鮎は、あたかも誘われるように、岸近くに設けられた竹垣の中に逃げ込む。これを見定めた漁師は、すかさず網を起し、鮎の反転を防いで捕獲する。

古人の「生活の知恵」から生まれた、この素朴な漁は、九月の下旬から十月の上旬にかけて豊漁期を迎え、稲刈を終える十月末まで続けられる。

朝霧の中、静かな水面に魚影を追う漁師のシルエットは、菊池川に晩秋を告げる風物詩でもある。

